

1 祖母神社 【そぼじんじや】

祖母嶽明神を名乗る老婆から受け取った不動明王尊像の軸を御神体として久安3年(1147)に建てられたとする伝説のほか、嘉吉2年(1442)創立説もある。伊耶那美命を祭神とし、秋葉社など7つの末社がある。陶製狛犬と境内を通る鎌倉街道の伝承地は市指定文化財。



祖母神社

2 鎌倉街道伝承地 【かまくらかいどうでんしょうち】

正式には「京鎌倉往還」。のちの東海道と区別するため「鎌倉街道」と呼ばれる。この付近は八橋宿の衰退に伴って次第に利用されなくなり、街道は南に移って池鯉鮒一鳴海間を通った。のち江戸時代末期になって刈谷藩士濱田与四郎が踏査し、絵図にその道筋を書き留めている。現在は刈谷市の指定史跡である。



鎌倉街道伝承地

3 地蔵群 【じぞうぐん】

もとは流行り病の供養塚として、5体の地蔵が安置されていたと伝わる。昭和36～38年(1961～63)の土地改良によって、近隣の地蔵がこの場所に集められることとなった。

4 来岸寺 【らいがんじ】

慶安3年(1650)多くの信仰を得ていた仏堂を改築し、名古屋西光院から了順を迎え、西山禅林寺派として創立した。明治6年(1873)西境村・東境村を学区として第6番小学校がこの場所に開校したが、翌7年には西境村の長善寺へ移転した。



来岸寺

東境 散策ルート



5 岩ヶ池 【いわがけいけ】

市北部には溜め池が多く存在し、岩ヶ池もそのひとつである。岩ヶ池は拳母台地に南北を挟まれており、陶土の採掘が容易であったためか、この池沿いに8世紀～13世紀頃の古窯跡3箇所が見つかっている。



岩ヶ池

6 永源寺 【えいげんじ】

大同3年(808)円澄が創建したと伝えられる。もとは祖母神社と境内を接する場所にあったとされるが、享保8年(1723)岩ヶ池氾濫の水害により、現在の地へ移った。所蔵の「祖母懐茶壺」は市指定文化財。



祖母懐茶壺

7 泉正寺 【せんしょうじ】

正平7年(1352)俣野入道により、時宗の道場が創立された。天正年間(1573～92)真宗大谷派に改宗する。本尊は阿彌陀如来立像。刈谷藩士濱田与四郎が調査した「鎌倉街道之図」がある。



泉正寺

8 郷蔵・高札場 【ごうくら・こうさつば】

郷蔵は、年貢米や備荒用の米穀類を保管する建物で、旗本本多知行所(のち西端藩)の所有であったが、村で管理を行った。この郷蔵の前には高札場があり、「切支丹禁制高札」(市指定文化財)が掲げられていたとされる。



切支丹禁制高札

9 兒塚 【ちごづか】

室町時代、徳阿弥という若者が流浪の果てにこの地の役人と右衛門の娘婿となり、男子が生まれた。しかし、徳阿弥は松平村の松平信重の娘婿となるため、息子も連れて松平村に移り松平親氏と名を変えた。与右衛門の娘は我が子との別れを悲しんで塚を築いたと言われている。



兒塚